吹上浜でオオヒョウタンゴミムシを採集
稲畑 憲昭

筆者は2002年8月30日から9月1日にかけて淡路島に旅行に行った。宿泊したホテルが南淡町でもあり、空いた時間が吹上浜のオオヒョウタンゴミムシの生息を確認するためにであった。30日の夕方にベイトトラップを約100個仕掛け、翌日の朝にもう100個ほど、合わせておよそ200個のコップを仕掛けた。追加した際、前日のコップを畳いたがオオサミムシ、キボシアオゴミムシや少しのアリしか入っていなかった。最終日の朝にすべて回収したがほとんどどのコップには少しのアリ以外入っていなかった。あきらめかけたところ、ハマゴウなどの下草が生えている松林の林床に仕掛けたコップによく1頭入っていた。体長は大あごを含めて36mmだった。

二晩とも台風の影響か雨が降り、よいコンディションとはいえなかったが本種の生息を確認できた。トラップは芝生を植栽している場所、林床を常に掃除している場所、イネ科の植物20cmほど繁茂している場所、下草にハマゴウなどの海浜植物が生えている場所のおよそ4つに設置した。ベイトには、すしの子、削り節、貝柱エキス、七味唐辛子を混ぜて用いた。したがって、本種が何に誘引されかたは不明である。偶然落ちたのかもしれない。

採集結果は以下の通りである。アリとサミムシ以外は全て回収した。カラカネゴクムシはトラップ設置中に採集した。

ハサミムシ目

オオサミムシ科

オオサミムシ

Labidura riparia japonica (de Haan) 1ex.

パッタ目

スズムシ

Meliorimpora japonica (de Haan) 1ex.

カネタタキ目

カネタタキ

Ornebius kanetakei (Matsumura) 1ex.

コウチュウ目

オマシ科

オオヒョウタンゴミムシ

Scarites sulcatus Olivier 1ex.

カラカネゴクムシ

Platymetopus flavilabris (Fabricius) 1ex.

キボシアオゴミムシ

Chlaenius posticalis Motschulsky 1ex.

アトワアオゴミムシ

Chlaenius virgulifer Chaudoir 1ex.

ハチ目

ツチバチ科

オオモンツチバチ

Scotia histrionica japonica Smith 2exs.

アリ科

ムネポソアリ

Leptothorax congnus F.Smith 6exs.

ハリナガムネポソアリ

Leptothorax spinosiore Forel 1ex.

オオザアリ

Pheidole nova F.Smith 1ex.

クロオザアリ

Camponotus japonicus Mayr 1ex.

吹上浜の近年の記録

福田(1979)は同年8月1日キャンプ場にて夜間、歩行中の個体を1頭採集とある。奥谷(1975)は1972年7月20日電灯にて1頭採集。シロスジゴアザは非常に多いとある。住孝次郎(私信)では1980年8月16日に、ネクターのビーチを用いたベイトトラップを30個かけて3頭入っていたそうである。前川(1984)は同年8月19日採集、詳しいデータはない。松本光樹郎(私信)では2008年8月17日にキャンプ場の海側の海浜植物群落の切れ目のあたりでばらばらの死体を目撃したそうである。

高橋さらに(1976)によると蝉前は瀬戸内海沿いに広く分布していたそうだ。高橋さらに(1997)では、兵庫県での生息地は吹上浜のみであるとある。しかも1973年当時から吹上浜では個体数は少ないようである。近年でも採集に行って、ほぼぐに終わる
人多いそうである。オオモンツチバチが非常に多かったのでコガネミシ科の幼虫は多そうであるが、オオヒョウタンコガネシのエサと言われるシロスジコガネは確認できなかった。県内には、採っぱ他にも生息地があるのだろうが、吹上浜では、松林の防波堤近くの、人や車に踏まれていない部分に帯状に生息しているのではないかと今回の調査で思った次第である。

最後に、暑い中トラップを掛ける時間を下さり、手伝ってくれた北河展子さん、情報をいただいた初宿成彦さん、畑卒次郎さん、松本光樹さん、河上康子さんに厚くお礼を申し上げる。

＜参考文献＞

塩田 滨(1973) 淡路島でオオヒョウタンコガネシを採集 Parnassius(10):7
奥谷慎一(1975) 吹上浜の甲虫2種 Parnassius(14):6
高橋寿郎(1976) 淡路島の甲虫相 Parnassius(16):4
環境庁(1980) 兵庫県オオヒョウタンコガネシ調査年度1978年 日本の重要な昆虫類(近畿版):82

前川和昭(1984) 採集4例の報告 Parnassius(31):7
新家勝(1990) 武庫川の昆虫目録 伊丹の自然(8):13
自然環境研究所(1993) 淡路島の絶滅の恐れのある野生生物(1)淡路島版レッドデータブック第1集
一 自然環境研究所:16-17
兵庫県(1995) 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック:112-113
高橋寿郎(1997) 兵庫の野生動物 絶滅が心配されている動物たち:167-168
大野正男(2000) 日本産主要動物の種別灰色総覧 (53) オオヒョウタンコガネシ(1) 東洋大学紀要 教義編第40号 自然科学第44号:133-162

(INAHATA NORIAKI
神戸市灘区八幡町1丁目2-54)

兵庫県未記録の蛾
兵庫県産蛾類分布資料・27

高島 昭

兵庫県産の蛾の文献記録と未発表記録について、筆者が収集したデータベースをもとに本誌で順次紹介しているところであるが、全部を紹介するには相当の時間がかかる。

そのような中で筆者が採集した蛾のうち兵庫県では未記録と思われる種が増えてきた。また、本会会員である中西明徳氏、八木剛氏の相談のお計らいによって兵庫県立人と自然の博物館の収蔵標本を調査させていただいたときに発見した「県下初記録種」と思われる種もある。

そこで、筆者が現在までに参照できた文献(既報)をもとに、兵庫県から未記録と思われる蛾を紹介したいと思う。なお、筆者の貧弱なデータベースをもとにしているので、誤った知見が混ざる可能性もあるかもしれない。そのような場合には御教示いただければ幸いである。

なお、採集者名の後に太字がついているものが兵庫県立人と自然の博物館で確認した標本のデータである。また、筆者採集のもとは採集者名を省略する。

TOROTORICIDAE ハマキガ科
Triterricinae ハマキガ亜科
1. Pandemis dumetana (Treitschke)
アミメトビハマキ
上郡町(偏板,4.VI.1997,1♂)
2. Gegeopa stenochara (Diakonoff)
ホシオピハマキ
波賀町(板の谷,17.VII.1998,1♀)
3. Gnorismoneura hoshinai (Kawabe)
ホシノハマキ
波賀町(板の谷,27.VII.1998,1♂)
4. Spatalis cristophana (Walsingham)
ギンボンヒハマキ
波賀町(板の谷,31.VII.1998,1♂)
5. Acleris laterana (Fabricius)
ヤナギハマキ
大屋町(横行浦谷,2.V.1999,1♂)
6. Acleris cristana (Denis & Schiffermüller)

— 53 —